

令和3年7月17日



杉並区立杓掛小学校運営協議会だより

杉並区立杓掛小学校運営協議会会長 近藤 真司

令和3年第3回 杓掛小学校運営協議会報告（令和3年7月14日）

- ◆会長挨拶・・月曜日から緊急事態宣言が出ました。夏休みの大半が入ってしまうことになりました。区からも感染防止につとめるようにメールがありました。
本日は前回に続いてこれからの運営協議会を、どういう形でやっていくかということを中心に進めていきたいと思います。
- ◆校長挨拶・・残り少なくなりました。
今週の土曜日で一学期は終了となります。緊急事態宣言発出により学校は、公共交通機関を使つての校外活動や修学旅行は中止或いは延期となります。富士学園の場合は、4月から7、8校が延期となっておりますが、本校は幸い5年生が7/7～7/9まで無事に実施することが出来ました。一日目は学校を出るときは雨でしたが、河口湖は晴れていました。夜のキャンプファイヤーでは普段はおとなしい子供達が盛り上がっていました。二日目は曇天の中ハイキングに向かいました。11時頃に雨が降り始めたので、宿舎に戻って昼食をとりました。夜は肝試しを楽しんでいました。三日目は、朝は雨でしたが忍野八海とネイチャーウォーク、クラフト体験を行いました。3日間の生活を通して子供達が大きく成長したと思っています。
また、7月は6年生が松原農園のジャガイモ収穫を行いました。荻窪警察署に協力して戴き不審者対応訓練も実施しました。夏休みには夏季水泳指導とパワーアップ教室を6日間行う予定です。
- ◆協議事項・・杓掛小学校運営協議会の意義と活動について（前回より継続審議）
 - ①学校評価（教育調査）について
 - ・前回、保護者の意見をどこで収集するかという問いかけがありましたが、学校評価を使って保護者の意見を採りたいということであれば、委員会で早めに検討する必要があります。
 - ・学校評価はその学校の教育目標に沿って教育が行われたかどうかを評価することが大切です。区の質問項目にはこの事は含まれていません。校長先生が掲げられた「子どもが主役の楽しい学校」が達成できたかどうかを、独自項目として子供達や保護者に聞いてみる必要がある。
 - ・学校評価以外に教員が行う年度末評価や分掌評価があると思います。それらの評価は次年度に向けての反省の面が強いのでその中に教育目標の達成についても入れてみてはどうか。

- ・学校評価を受けてそれをどう改善していくかが重要なので、協議会でもその点について協議出来ると良いと思う。

②地域とのさらなる関わりの強化、地域の中で沓掛小学校をどう考えるか

- ・地域住民の目線が重要だが、多くの住民はこのような活動や存在を知らない。そういう方にアプローチする方法を考えていく。
- ・言葉では地域住民と一体となつてと言うが、地域の方がどんな活動をされどんな影響力があるか分らない中で交流をするには、地域の組織と組んでやる必要がある。
- ・沓掛小は町会が複数あり、主体となる町会がない。これまでのやり方で広げていくのは難しい。学校が核となり町会が一体となる広く長期的な取り組みが必要ではないか。

③PTA・教員との交流

- ・PTAや教員との交流を進めるのであれば何を話すかが重要。可能であれば「電子メディアの功罪」はどうだろうか。タブレットが一人一台配られ、ICT教育は盛んになっていきます、一方スマホが普及し、小学生の43%が利用している。スマホを利用する時間が増えれば学力は低下すると東北大学医学部が警鐘を鳴らしている。スマホは家庭の問題であるので話し合いが必要ではないか、
- ・電子メディアは重要なテーマと考える。意見を集め9月に検討していきたい。

次回の運営協議会は9月14日（火）17：00～ 於：開放会議室

学校運営協議会は公開されています。傍聴希望者は副校長へ